



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

INARS 九州プロバイダーコース

～熊本初開催を終えて～



平成 28 年 7 月 16 日（土） 当院 3 階講堂にて INARS（Immediate Nursing Assessment Recognition Stabilization：心停止回避コース）九州プロバイダーコースが開催されました。INARS 九州プロバイダーコースは、主に福岡県を中心に長崎県・大分県の地域で開催されていますが、今回当院で熊本初開催を迎えることができ、熊本市内や鹿児島市内、当院職員と各方面から受講生 25 名（定員）が参加されました。

さて、本コースの最大の目的は、『心停止を回避』することにあります。急変が起こる 6 から 8 時間前には何らかの徴候があると言われてしています。本コースでは、『評価』『認識』『行動』を繰り返し行う、体系的アプローチをチームで学んでいきます。チームで学ぶ事により、チームワークの必要性やディスカッションすることで考え方の固執を防ぎ、患者に対して安全な看護（医療）が提供できると思います。患者がいつもと違うな？と思ったときに本コースが非常に役に立つことは間違いのないと思います。

今回、熊本初開催が当院で開催出来ることとなり、ご尽力いただいた方々に心より感謝申し上げます。受講生からも有意義なコースであったと好評をいただいております。看護の質を向上していくためにも、今後定期開催を検討していきたいと考えています。

患者さんのために皆で頑張りましょう。

人吉医療センター ICU 橋本 奈央

受講者の感想

今回 INARS を受講するまで、心停止回避について深く考えたことはありませんでした。実際に受講し、現場で普段行っていることの振り返りになり、ABCD を一つ一つ評価し行動する事、またチームで情報共有することが心停止回避の手段となり、医師への報告もスムーズに行えると感じました。

今回、人吉開催という事で私たち南九州の人が参加し易く、大変良い研修となりました。

今後、より多くの研修が南九州で盛んに行われることを期待したいです。

鹿児島徳洲会病院 徳永 和

私は上司の勧めで INARS プロバイダーコースの存在を知り受講させて頂きました。

講習を受け、体系的アプローチを行うことで緊急度を認識でき、救命につながる行動が見えてくるという事を知りました。チームの中で情報を共有し意見を出し合うことは、自分だけで判断できない事への不安が減りチーム力を高めることで、適切な対応へと繋がることを学びました。今までの業務の中で、何か変だけどう対応してよいのかと迷っていた事や、報告のタイミング・方法などをこのコースで学ぶことができ、今後の看護に活かしていきたいと思っています。今後も看護師として自分を高めていきたいです。

人吉医療センター 6 階病棟 山田 里佳

感染防止対策相互評価

感染防止対策相互評価とは、感染防止対策地域連携加算の施設要件として、連携する医療機関同士が相互に訪問し感染防止に関する評価を行うことで感染対策の向上を図ることを目的とした活動です。

各医療機関の ICT（感染制御チーム）が、100 を超えるチェック項目表を用いて書類調査、院内視察を行い、その内容を報告しています。

平成 24 年に感染防止対策知已連携加算が導入されてから、当院は今年 5 回目の評価を受けることになりました。開始当初 3 年間は、毎年、同じ医療機関との相互評価でしたが、昨年から熊本県内の 17 医療機関が参加する県内連携に参加し、毎年、違う医療機関の評価を受け連携の



輪を広げているところです。今年度は、県内連携のほか地域の中核病院として共に活動している球磨郡公立多良木病院との相互評価も行っています。

改善が必要とされる内容に関しては、院内で検討し改善に向けた取り組みが必要となりますので職員の皆さん感染対策へのご協力をお願い致します。

感染管理室 別府 るみ

～チームで支えるがん治療～ 緩和ケアでの心と向き合って vol.2

当院ではがん治療をされている患者さんが安心して治療を受けて頂けるように、様々な取り組みを行っています。今回は臨床心理士の取り組みを紹介いたします。

平成 28 年 7 月 22 日（金）地域連携緩和ケア研修会にて、『緩和ケアへの心理的支援』と題し、臨床心理士の立場から様々な“心の反応”についてお話をさせていただきました。

癌の宣告は、「死」を意識するような衝撃とも言われ、特有の心の反応がみられると言われています。具体的には、症状を自覚したり診断を受けたりした後、①何かの間違いだろう（否認）、②なぜ癌にならなければならないのか（怒り）、③どうにか自分だけは助けてほしい（取り引き）、④癌になり何も考えられない（抑うつ）、⑤落ち込んでいても仕方がない、今できることを精一杯しよう（受容）、というように状況に応じて生きる術（心の反応）を使用すると言われています。もちろん、性別や年齢、病状の経過や患者さんが過ごしてこられた環境によって、受け止め方や表出の仕方は様々です。また、段階的にとりより、移ろいゆく思いを行ったり来たりすることも特徴として示されます。しかし、その中でも、一貫して希望を持ち続けると言われています（『死ぬ瞬間』キューブラー・ロス）。

実際に患者さんからは、見慣れない機械での検査に緊張したり、ちょっとしたスタッフの会話に敏感に反応したり、身体反応として表現される場合もあります。また、死ぬのではないかと怖くなった、仕事や家族はどう

しようと先を案じたなど、様々な思いが生じたことを表現される方もいらっしゃいます。そして、“癌”という病名や癌治療に対し、痛い、苦しいなどの否定的イメージも加わり、不安や苛立ちを一人で抱え込んでしまったり、再発への不安が維持されたりする場合があります。更には、癌患者さんのご家族もまた、癌告知後、不安や葛藤などを抱え気持ちが動揺することがあります。そのため、癌患者さんやご家族の気持ちに配慮しながら、いつでも耳を傾ける準備ができてい存在とし、近くに居ることを目指し取り組んでいます。

しかし、癌治療や緩和ケアでの取り組みは医療者だけで行うものではありません。患者さんの思いをその都度確認したり、これまで過ごしてこられた背景を教えてください、患者さんにもご協力いただきながら共に進めていくことにもなります。自身の経過を受容するには時間を要す場合もありますし、患者さんの思いが医療者に語られるにはその場の雰囲気や関係性も影響します。患者さんの思いや価値観、家族関係や過ごしてこられた人生など、一人ひとりの背景や症状だけでは目に見えないものを大事にすることを心がけながら、今後も心理的支援の向上に努めていきたいと思ひます。

臨床心理士 鶴田 真奈美

出前講座開催！

～熱中症予防対策～

平成 28 年 7 月 10 日、場所は東間公民館（コミュニティセンター）にて当院の植木師長（ICU 看護師長）が熱中症予防対策の講演を行いました。

今回、株式会社未来ガードシステム様より職員の熱中症予防対策及び職員自身の健康管理の強化・促進の為に当院へ講演の依頼を頂きました。当日は、職員の方のみならず、近隣の地域住民の方を含め、約 30 名の参加がありました。

熱中症の原因や症状をはじめ、予防法について、また、

熱中症になった時の対処方法や A E D の取り扱いについても説明を行いました。

今年の夏は、連日猛暑日が続いており、より一層熱中症予防対策が必要な状況です。日頃より適切な予防、処置を講じることで熱中症の発生を予防していただければと思います。

医療福祉連携室 田頭 隼人





ハワイ研修を終えて

我々研修医1年目の4人は、7月11日から2日間、ハワイ大学医学部 Sim Tiki Simulation Centerにおいて、所長のDr.Benjamin W Bergの指導の下研修に参加しました。

9時間の飛行機にお尻のダメージを受けつつ到着、気温は高いものの湿度が低く、とても過ごしやすい天気でした。お祭りをやっているのか？と見間違ふほどの人の量にクラクラしながら、肉を食すという目的の下ハワイの街を散策し、本番である次の日の研修に備えました。

研修1日目はレクチャーの後、シミュレーター使った小児救急対応の実践、2日目は当直と病棟での急変患者への対応、救急患者への初期対応、内視鏡操作のシミュレーションなどを行いました。全て英語の講義で戸惑いを感じつつも、聞かぬは一時の恥、田舎者で何が悪い！の根性のもと必死でくわいつきました。一見本物の人間かと思間違ふほどのシミュレーターを使いながら、現場さながらの雰囲気のもと実際に診療を開始。家族役の先生に話を聞きながら、実際に心肺蘇生をしたり、薬の投与等を行います。そ



の様子をビデオカメラに撮り、後ほどそれを見ながらチーム医療としての一つ一つの動き、コミュニケーションや指示の出し方などを振り返り皆で討論をしました。全国4施設から計14名の研修医が参加、我々4人以外は皆2年目、3年目の先輩方であり、その知識量の差、動きのすばやさ、対応の正確性など勉強になるものばかりでした。抽象的なことではなく、実際の診療の具体的な事柄まで突っ込んだ講義、討論はとても新鮮で、短い時間でしたが様々な知識、経験を吸収することが出来ました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった皆様に深く御礼を申し上げます。ありがとうございました。



基幹型臨床研修医
鮎田 貴也

研修医挨拶

はじめまして。今年の7月より来年の3月までの9ヶ月間、人吉医療センターにて研修させていただきます、研修医1年目の石原旭と申します。6月までは熊本市市民病院で研修していました。この度の熊本地震のため研修継続困難となり、人吉医療センターでの研修をさせていただくことになりました。

出身は熊本市です。地元とは違った地方での医療を研修医のうちに体験しておきたい、と考え人吉医療センターを研修先として希望しました。熊本市市民病院での研修によりやく慣れてきたところかな、と思っていたところで環境が変わり少々不安ですが、一日も早く病院での業務に慣れ、少しでも地域に貢献できればと思っています。

人吉を訪れたのは初めてです、引っ越してきた時は不

安ばかりでありました。しかし、先生やスタッフの方々、そして周りの研修医の先生方に支えられて少しずつですが人吉での生活に慣れてきたところです。

人吉は球磨焼酎やうなぎ等の食べ物が有名だと聞いています。お酒を飲むことも食べることも大好きなので、研修の息抜きに楽しめたらと思っています。

至らないところもあり多くの方にご迷惑をかけることがあるとは思いますが精一杯頑張ります。これから9ヶ月間、限られた期間ではありますがどうぞよろしくお願い致します。



基幹型臨床研修医
石原 旭

第2回 人吉医療センター認定看護師研修会のご案内

認定看護師とは、日本看護協会認定看護師審査に合格し、ある特定の分野において、熟練した看護技術と知識を有する事を認められたものをいいます。

今年2月に「地域看護への寄与」を目標に、第1回のHMC認定看護師研修会を開催いたしました。医療・福祉施設より総勢40名を超える方々に参加して頂き、真面目な話の中にも笑いがあり終日楽しい研修会になりましたが、

今回は多様な方も参加しやすいように、午後からの半日コースとし、3チームに分かれて、申し込んだチームで最後まで受講することになります。また各チーム定員を設けますので、申込みが多い場合は各病院・施設のバランスを考慮し、主催者側で受講者を選定させていただきますので、あらかじめご了承ください。沢山のご応募をお待ちしております！

場所会場：人吉医療センター

研修日：平成28年12月3日 土曜日

研修時間：13:00 ~ 17:00

研修対象施設：人吉球磨の医療・福祉施設 えびの・伊佐湧水の基幹病院

応募方法：当院より対象の医療・福祉施設へ申し込み用紙をFAX致します

応募期間：9月下旬～11月初旬の予定

チーム名（担当認定看護師）：

がん看護チーム（緩和ケア・がん性疼痛・がん化学療法・がん放射線療法）

患者を守るケアチーム（感染管理・認知症・皮膚排泄ケア・糖尿病）

フィジカルアセスメントチーム（手術・救急・集中ケア・脳卒中リハビリテーション）

懇親会：もちろんやります！「看護の輪」を広げましょう（*^_^*）



医療現場体験

毎年、人吉球磨地域の小中高生の職場体験を受け入れています。今年も看護職、医療技術職、事務職等いろいろな職種を見学及び体験していただきました。職員が業務について説明している時、児童及び生徒達は、真剣な表情で話を聴いていました。職場体験を終えて、自分が目指している職業に益々思いを深めた方もいれば、新たな選択肢を見出した方もおられた様子でした。近い将来、職業を選択する際の参考になることを願います。

総務企画課 石井 潤

人吉医療センター H28年の職場体験

7/5～7/8 球磨商業高校3名
7/12～7/14 南稜高校1名
7/25、7/29 夏のボランティア体験行事15名
8/4～8/5 人吉高等学校12名

8/24～8/25 人吉市立第一中学校4名
9/7～9/8 人吉市立第二中学校4名
10/4～10/6 相良中学校6名

医療現場を体験してきました！

(小学生ボランティア)

- ・車椅子を押したり乗ったり、聴診器で心臓の音を聞いたりしてとてもいい体験になりました。
- ・車椅子や注射などを見て命を預かることの大切さを学びました。
- ・患者さんと将来の夢や好きなことを話して楽しかった。
- ・ご飯の配膳で患者さん一人ひとりに合ったメニューがあり、名前を間違えずに配るという緊張感を感じました。
- ・病室に昼食を運んだ時に、おじいちゃんやおばあちゃんから「ありがとう」と言われてとても嬉しかった。また、こういう機会があれば積極的に参加したい。
- ・これからいろんな人と関わっていくと思うけど助け合っていきたい。



(高校生インターンシップ)

- ・医療関係の仕事は、こんなに多くの職種があって、たくさんの人が協力していることを実感しました。
- ・人の命を預かることの大変さ、人とコミュニケーションをとる難しさ、ほとんど一日中立ったまま仕事をすることの大変さを痛感しました。看護師になった後でも日々勉強しなければならないと聞かされ、1日1日を大切に看護師になれるよう勉強を頑張ります。
- ・この2日間で色々な部署を見学しましたが、どこに行っても一番大切なことは「チーム医療」だと言われました。今まで看護師になることしか考えていなかったけど血液検査のことを聞いて臨床検査技師にも興味が湧いてきました。
- ・たくさんの部署を見学し自分が全く知らなかったことを知ることができました。将来の夢である看護師の体験をさせていただきました。看護師さんは患者さん一人ひとりの症状を理解し患者さんと向き合っていて、改めて看護師になりたいと思いました。この経験を進路実現に繋げていきたいです。

高校生 1 日看護体験

8月9日 当院において人吉球磨の「高校生の1日看護体験」が行われました。高校生は各病棟を訪ね、患者さんと触れ合い、様々な看護を体験してもらいました。感想文を頂きましたので、紹介します。

私が高校生一日看護体験に参加した理由は、将来看護師になる夢を持っており、看護師の仕事内容を知りたかったからです。

ナース服に着替え、気持ち引き締まりました。私は7階病棟担当で、高齢者の方が多く入院しておられました。仕事内容は、患者さんの体温・脈拍・心拍数・血圧を計りお腹の音などを聴きました。一人の患者さんは私たちが接したら涙を流されました。とても喜んでくださって笑顔があふれました。患者さんの足を洗うとき、自分以外の人の足を洗うのは初めてで、力加減がわからず「痛いですか？」と声をかけました。体温を測る時に自分では測るのが難しい患者さんには手を添えました。また、患者さんの脈拍を測らせて頂きました。とう骨動脈に指二本を添え測りました。とても細い血管で、そこで脈拍を測れることに驚きました。さらにお腹に音があり、そこで体調もわかるのでお腹の音や脈拍はとても大切だなと感じました。ベッドを整えたあとは、ナースコールを必ず手の届く所に置くことが



一番大切だと教えていただきました。

私はまだ看護の専門知識は有りませんが、コミュニケーション力を高めることは今からでもできると思いました。患者さんに「南稜高校から来ました」と言うと、患者さんのお子さんにも南稜だと教えて下さいました。「南稜高校」という言葉で会話がはずみ、患者さんも私も笑顔になり、とても楽しい時間が過ごせました。患者さんは手術前で不安な気持ちの中、私たちと会話することで少しでも不安な気持ちがとれていたらいいなと思いました。大きな声で笑顔で接することで会話がはずみ、患者さんとの関係も良好になるとわかりました。笑顔と優しさで患者さんを笑顔にできるような看護師になりたいと、今回の看護体験で強く思いました。

人吉医療センターの皆様、お忙しい中、一日看護体験の時間を設けてくださってありがとうございました。

南稜高校 2年

ボランティアの紹介と募集

～広げれボランティアの輪～

【一般ボランティア】

- 受付補助や案内：1F、2F受付前や外来を回り、患者さんの案内など安心して受診していただけるよう支援をします。自動受付機・支払機利用のお手伝い、診察室や検査室への案内など行います。
- 移動支援：車椅子の患者さんへのお手伝いやエレベーター利用のお手伝いなど行います。
- 図書整理など：本の整理や蔵書管理を行い、みなさんが気持ちよく、もちの樹（患者用図書室）を利用できるように取り組みます。

【こころを聴く（傾聴）ボランティア】

患者さんやご家族の思いを傾聴し、少しでも心が軽くなるよう活動しています。

院内の様々なところで活躍されています。ボランティアと職員の交流は、まだまだ活発とは言えませんが、季節の行事にも共に参加して頂いております。ボランティアはグリーンやピンク、イエローのユニフォーム（ポロシャツ）を着て活動しています。お見かけしたら積極的に声をかけ、病院をより良くできるように職員共に力を合わせていければと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

当院では多くの方がボランティアへ登録、活躍されています。今回は、当院におけるボランティアの様々な活動をご紹介します。活動内容は以下の通りです。大きく分けて「一般」「傾聴」「レクリエーション」があります。

- 毎週水曜PM：外来や病棟にて希望のあった患者さんの傾聴をします。
- がんサロン（毎月第4水）に参加して、がん患者さんの話を聞いたりします。
- 緩和ケア病棟遺族会にも参加し、グリーフケアとして遺族の思いなどを傾聴します。

【レクリエーション（患者図書室）】

下記の講師もボランティアで来ていただいています。

- | | |
|-------------|----------|
| ●カラーペインティング | ●アロマセラピー |
| 毎月第2、3木曜日 | 毎月第1木曜日 |
| 10:00～ | 14:00～ |
| 梶原 章子 先生 | 竹下 久美 先生 |

また、人吉医療センターでは、ボランティアを随時募集しております。上記活動内容以外でも、皆さんの特技や希望に応じてその他色々な活動をしていただくことも可能です。詳しくは下記までお問い合わせください。

医療福祉連携室 南
TEL：0966-22-2191（代表）（内線：240）

「医療に関する意思表示について」 “当院は、患者さんの意思を尊重しています”



当院では、基本方針に基づき、患者中心の医療を目指しております。初回問診時、受診される患者さんに医療に関する意思表示についてお伺いしております。「宗教上（エホバの証人など）の理由での輸血拒否」と希望される患者さんも受け入れています。その他、「臓器移植意思表示カード」「尊厳死宣言書」「終末期宣言書」など希望される方へも、患者さんの病状を勘案し、インフォームド・コンセントを行った上で対応していきますので、お気軽にご相談ください。

医療福祉連携室 0966-22-2191（内線 240）

部活動紹介 ～求む 新入部員！～

◆フットサル部

2007年より発足した当院のフットサル部は、今年で10年目を迎えます。

発足当時は活発に練習を行っていた時期もありましたが、現在、なかなか定期的な練習が出来ていませんが、約20名の部員が在籍し、まだまだ元気に活動しております。

例年出場している人吉フットサル大会（フレンドリーの部）に今年も出場しました。

今回は、脳神経外科 松浦先生、研修医 松田先生、熊本大学病院麻酔科 山田先生の新たなメンバーが加わり、メンバー交代をフルに活用し、皆で頑張りました。結果としては10チーム中4位で終わりましたが、熱く、楽しく試合が出来ました。試合をする度に日々の練習の大事さを痛感しています。今後も大会などには出場していきたいと思いますので、院内職員の方でフットサルに興味がある方は、近くのフットサル部員にお声掛け下さい。一緒にフットサルで汗を流しましょう。

フットサル部 田頭 隼人



◆自転車部 ヒルクライム高千穂天岩戸大会参加

今年の5月15日に行われた、第4回ヒルクライム高千穂天岩戸大会。あの甚大な被害を受けた熊本地震から1ヶ月後ということもあり、九州内で予定されていた自転車のイベントが次々と中止になる中で本大会も中止になるのではと思っていたら、幸い高千穂町では大きな被害はなかったそうで無事に開催できるとの通知を受け、4名が参加してきました。この大会についてざっくりと説明すると、自転車で約15kmも続く坂を上りタイムを競い合う大会です。コースは比較的なだらかな坂が淡々と続き残り3km位から徐々に斜度がきつくなり、ゴール前500mに壁のような坂が3つと比較的優しめの設定です。トップクラスの選手は35分程でゴールしちゃいますが、僕らはひいひい言いながら1時間切れるか？を目標に頑張ってきました。職員の参加者は全員去年よりも良いタイムが出せたと思います。

また、ありがたいことに高千穂町全体で被災した熊本県民と大分県民を何か応援しようという動きがあり、宿泊したホテルでは宿泊代を割り引いてもらえ、また高千穂町立温泉センターでは無料で温泉にいらていただきました。また、来年も高千穂に行って参加しようと思います。興味がある方は来年一緒に参加しませんか？

自転車部 濱津 育宏

部署紹介 病理検査室の業務について

病理検査室の業務は、大きく 組織検査、細胞診検査、病理解剖に分けられます。

組織検査とは、生検或いは手術で摘出された臓器から、組織標本を作製し病理学的に診断を行うことを言います。組織診断では、病理医が組織標本を顕微鏡で観察し、診断します。

細胞診検査とは、喀痰や尿、胸水、腹水といった生体より採取した検査材料（検体）から、細胞診標本を作製し細胞学的に診断を行うことを言います。細胞診検査は、病理医の指導の下、臨床検査技師（細胞検査士）が、細胞一つ一つを顕微鏡で観察し診断を行い、悪性の疑いがある場合などは、病理医が最終診断を行います。

病理解剖とは死因や病気の原因を調査し、臨床経過と死後

の臓器所見との関連付けを行います。また、解剖の症例についてはCPC（病理・臨床カンファレンス）を開催し、教育にも重要な役割を担っています。

このように、表舞台にはほとんど顔を出さない部門ですが、これからは患者さんのために正確な診断が出せるよう、スタッフ一同より一層精進して参ります。

病理検査室 正木優樹、中村ひとみ



納涼 緩和ケア夏まつり

今年の夏は例年になく猛暑が続いております。気温36.5度も珍しくありませんでした。

緩和ケア病棟では、患者さんに季節を感じていただけるような催しを行っています。

ボードに貝殻やハイビスカスの花を使って工作したり、朝顔やひまわりの花、風鈴、祭り用の団扇などを並べたりしました。また、水風船を皆さんに配り、涼を感じていただきました。

8月15日は人吉花火大会が行われ、透き通った夜空に大きな花火はとても綺麗でした。患者さんやご家族を花火が見える位置に移動し、しばらく一緒に過ごしました。

花火が終われば秋の風が吹いてきますが、まだまだ暑い夏は続きそうです。熱中症にならない様、元気のりきりましょう。

8階 緩和ケア病棟 スタッフ



『くま川がんサロン』開催日変更のお知らせ

『くま川がんサロン』は、がん医療に関する悩み、がんに関する体験談などを語り合い、情報交換の場として月に1回開催しています。2016年7月より、開催日が第3水曜から第4水曜に変更になりましたので、お知らせいたします。がんと診断を受けた方、がん治療経験者、がん患者ご家族のご参加をお待ちしております。

開催場所：本棟2階 図書室（もちの樹）

開催時間：13時～15時

内容：がんに関する情報交換、がん講座、茶話会など

問い合わせ先：人吉医療センター

医療福祉連携室 南・鶴田

開催日
平成28年 9月28日（水）
平成28年10月26日（水）
平成28年11月30日（水）※第5水曜日
平成28年12月21日（水）※第3水曜日
平成29年 1月25日（水）
平成29年 2月22日（水）
平成29年 3月22日（水）

新任紹介



はなむね さやか
花牟禮 沙耶華（6階・看護師）

最終卒業校：龍桜高等学校

趣味：映画鑑賞、旅行

好きな言葉：一期一会

長所：温かな性格で明るいところ

短所：一つのことに集中すると周りが見えなくなるところです
自分のコマーシャル：私は以前働いていた病院で患者さんに寄り添いながら看護をし、日々沢山のことを学びました。人吉医療センターでも少しずつかもしれませんが、より質の高い看護を提供できるように精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。